

改正前



(A面)

日本国大阪総領事館  
 税関様式第2009号

(B面)

## 携帯品・別送品申告書

下記及び裏面の事項について記入し、税関職員へ提出してください。  
 査察官が面談に検査を受ける場合は、代表者が1枚提出してください。

<b>旅客名(姓)</b> _____	<b>出発地</b> _____	
<b>入国日</b> _____年 _____月 _____日		
<b>氏名</b> _____	<b>フリガナ</b> _____	
<b>居住所</b> (日本での滞在先) _____		
<b>電話</b> _____		
<b>職業</b> _____		
<b>生年月日</b> _____年 _____月 _____日		
<b>同行乗客</b>	<b>タロ以上</b> 名	<b>タロ未満</b> 名

※ 以下の質問について、該当する口に「✓」でチェックしてください。

- 下記に掲げるものを持っていますか？ はい いいえ
  - ① 麻薬、銃砲、爆発物等の日本への持込みが禁止又は制限されているもの (B面1.及び2.を参照) ☐
  - ② 金貨又は金製品 ☐
  - ③ 免税範囲 (B面3.を参照) を超える購入品・お土産品・贈答品など ☐
  - ④ 商業貨物・商品サンプル ☐
  - ⑤ 他人から預かったもの ☐

※上記のいずれかで「はい」を選択した方は、B面に入国時に携帯して持ち込むものを記入してください。
- 1,000円相当額を超える現金、有価証券等 はい いいえ  
 は1kgを超える真金銀などを持っていますか？ ☐

※「はい」を選択した方は、別途「支払手続等の携帯輸出・輸入申告書」を提出してください。
- 別送品 入国の際に機内持ち、郵送などの方法により別送した荷物(引越荷物を含む。)がありますか？ はい ( ) いいえ ( )  
 返った ( ) ( )
 

※「はい」を選択した方は、入国時に携帯して持ち込むものをB面に記入したこの申告書と並べ、税関に提出して、税関の審査を受けてください。(入国後30日以内に輸入するものに限る。) 査察を受けた申告書は、別送品を返却する際に必要となります。

**【注意事項】**  
 海外又は日本出国時及び到着時に免税店で購入したものと、預かつてきたものを並べ、税関に提出して、税関の審査を受けてください。(入国後30日以内に輸入するものに限る。) 査察を受けた申告書は、別送品を返却する際に必要となります。

この申告書に記載したとおりである旨申告します。

**署名**

日本に入国(帰国)されるすべての方は、法令に基づき、この申告書を税関に提出していただく必要があります。

※入国時に携帯して持ち込むものについて、下記の表に記入してください。(A面の1.及び3.ですべて「いいえ」を選択した方は記入する必要はありません。)

(注)「その他の品名」欄は、個人的使用に供する購入品等により、1品目毎の海外市価の合計額が1万円以下のものは記入不要です。また、別送品も記入不要です。

酒	種類	本	税関記入欄
たばこ	紙巻	本	
	葉巻	本	
	その他	個	
香水		個	オス
その他の品名	数量	価格	
			円

※税関記入欄

- 日本への持込みが禁止されている主なもの
  - ① 麻薬、向精神薬、大麻、あへん、覚醒剤、MDMA、指定薬物など
  - ② 拳銃等の銃砲、これらの銃砲弾や拳銃部品
  - ③ 爆発物、火薬類、化学兵器原材料、炭疽菌等の病原体など
  - ④ 貨幣、紙幣、有価証券、リサイクルなどの偽造品など
  - ⑤ わいせつ雑誌、わいせつDVD、児童ポルノなど
  - ⑥ 偽ブランド品、海賊版などの知的財産侵害物品
- 日本への持込みが制限されている主なもの
  - ① 銃銃、空気銃及び日本刀などの刀剣類
  - ② ワンテン条約により輸入が制限されている動植物及びその製品(ヒナ、ハチ、ハチ、象牙、ジャコ、タコなど)
  - ③ 事前に検疫確認が必要な生きた動植物、肉製品(ソーセージ、ジャーキーを含む。)、野菜、果物、米など
  - ④ 事前に動物・植物検疫カウンターでの確認が必要。
- 免税範囲(一人あたり。乗組員を除く。)

・酒類3本(760mlを1本と換算する。)

・紙巻たばこ：外国製及び日本製各200本  
 (非居住者の方の場合は、それぞれ2倍となります。)  
 ※2018年10月以降、居住者・非居住者ともに400本(外国製、日本製の区分なし)となります。

※20歳未満の方は酒類とたばこの免税範囲はありません。

・海外市価は税関が20万円の範囲に納まる品物  
 (入国者の個人的使用に供するものに限る。)

※海外市価とは、外国における通常の小売価格(購入価格)です。

※1個で20万円を超える品物の場合は、その全額に課税されます。

※6歳未満のお子様は、おちやなど子供本人が使用するもの以外には免税になりません。